



## 【取組内容】

- 汚泥中の微生物分解を研究し、**微生物を活性化させ農産物の成長を促進させる微生物植物活性剤「東京8」(有機JAS資材登録済)を開発。**
- 高額な農業資材調達に課題があるサブサハラアフリカ等の開発途上国において、小規模農業者に低コストで展開し、収穫量の引き上げに成功。**小規模農業者の経済力向上**及び当該国の**食料安全保障に貢献。**
- 土壌中における**有機物の分解・合成機能を引き上げ肥料の効率性を引き上げる**ため、化学肥料や農薬使用量の低減に繋がり、**環境にも寄与。**

## 【評価のポイント】

普遍性	国内外の関係者を広く巻き込み、現地生産が容易且つどの地域でも展開可能な取組であるため、国際社会におけるロールモデルとなり得る。
包摂性	開発途上国における小規模農業者の生産性を高め、女性も就業している職種を新規創出。
参画型	開発途上国の学生や女性をはじめ、国内外の様々な関係者と連携して取組を進めている。
統合性	当該製剤の導入により、食料自給率の向上と小規模農業者の経済的自立及び有機栽培への移行により、社会・経済・環境の三側面に貢献。
透明性と説明責任	事業の参画を募る説明会を広く実施し、活動内容もSNS等で発信を行い、参画者との共有を密に行っている。
変革性	学生を巻き込む将来性がある取組且つ、本来廃棄される汚泥から生成される製剤は、新たな資源循環を生み出し社会を変革している。
連帯性と行動変容	展開先でのネットワークコミュニケーションを構築し、各国・地域間で課題解決に向けた情報共有を行うことで行動変容の連鎖に繋げている。

